

2016. 2. 19

平成 27 年度

「運営に関する計画」

**最終評価**

大阪市立昭和中学校

平成 28 年 2 月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

- 全国学力・学習状況調査については、平均正答率は全ての教科において全国平均を上回り、平均無解答率は全ての教科において全国平均を下回るなど、一定の成果を達成することができた。一方、家庭における予習・復習などの学習習慣や読書習慣、図書館の活用等に課題を残した。
- 命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を確保するため、道徳教育や教育相談活動のさらなる充実を図る必要がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における男子の平均記録は、持久走以外の種目において大阪市平均ならびに全国平均を上回っている。また、女子の平均記録は、長座体前屈のみ全国平均を下回っているものの、それ以外の種目において大阪市平均ならびに全国平均を上回っている。望ましい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる教育を家庭・地域と連携しながらさらに推進する必要がある。
- 学校教育 I C T 活用事業（平成 25～26 年度）のモデル校として、研究と実践に一定の成果をさめることができた。全市展開に向けて、平成 27 年度も引き続きモデル校・先進的研究校として公開研究授業や授業公開を行い、さらに研究を継続していく必要がある。

## 中期目標

## 【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

## 【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、平成 24 年度より向上させる。(カリキュラム改革関連)

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 100% にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、平成 24 年度より向上させる。(ガバナンス改革関連)

#### 【視点 教職員の I C T 活用能力の向上】

- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に I C T を活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100% にする。(マネジメント改革関連)
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に I C T 活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 100% にする。(マネジメント改革関連)
- 平成 27 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に I C T を活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 100% にする。(マネジメント改革関連)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

## 【視点 学力の向上】

- 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2 時間以上」と答える生徒の割合を 50 % 以上、かつ「1 時間以上」と答える生徒の割合を 80 % 以上にする。

(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)

- 平成 27 年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート(5 月・12 月実施)の各項目において、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える生徒の割合を、5 月実施分より 12 月実施分において向上させる。

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている(どちらかといえば、努めている)」と答える保護者の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

## 【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 27 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている(どちらかといえば持っている)」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、85% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる(どちらかといえば対応してくれる)」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている(どちらかといえば、知らされている)」と答える保護者の割合を、85% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合を、50% 以上にする。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる(どちらかといえば取り組んでいる)」と答える生徒の割合を、80% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

## 【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食(家庭弁当や学校給食)を取る生徒の割合を 90% 以上にする。(カリキュラム改革関連)

- 平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている(どちらかといえば図っている)」と答える教職員の割合を、100% にする。(ガバナンス改革関連)

### 【視点 教職員のＩＣＴ活用能力の向上】

- 平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にＩＣＴを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にＩＣＴ活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にＩＣＴを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）

### 3 本年度の自己評価結果の総括

視点ごとに定めた年度目標のうち、いくつかは定めた数値に届かなかったものの、総じて目標は達成できている。また、平成25年度より3か年をかけた中期目標についても、大半の目標は達成できた。とりわけ全国学力・学習状況調査（国語A・B、数学A・B・理科）の平均正答率は、大阪市ならびに全国の数値を大きく上回っており、学力について一定の評価はできる結果となっている。

以下視点ごとに、次年度以降に改善を要するところについて具体的な方策とともに列挙する。

#### 【視点：学力の向上】

- ・自主学習習慣の定着に課題がみられるものの、学年進行にともない改善の傾向がみられる。入学時から家庭と密に連携し、予習・復習にきちんと取り組むことができる生徒の育成に努める。また学校元気アップ地域本部と連携し、自学の機会を提供する。
- ・小中の連携を強化し、学習面だけでなく、生活面においても中高一貫した教育の構築を模索し、中1ギャップをなくすようとする。

#### 【視点：道徳心・社会性の育成】

- ・本校の教育相談体制が、まだ生徒の不安や悩みの解決に十分応えきれていない面がある。教職員がカウンセリングマインドをもって相談にのぞめるよう、研修の充実に努める。
- ・道徳の教科化を見据え、次年度以降の道徳の時間について良質な読み物資料の活用を柱とした指導方法の工夫と改善を図り、生徒の道徳的価値の内面化を図る。
- ・3年間を見据え、計画的なキャリア教育を実践することで、勤労観・職業観を育てるとともに、将来への夢や目標を持つ生徒を育てる。

#### 【視点：健康・体力の保持増進】

- ・それぞれの集団の状況に応じ、体力や運動能力の課題を見据え、それを改善し伸ばしていく手立てを図る。
- ・食育の観点からバランスのとれた昼食をとることの意義について生徒に丁寧に指導する。

#### 【視点：教職員のＩＣＴ活用能力の向上】

- ・校務のＩＣＴ化により効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間の増加に努める。
- ・タブレットＰＣのＯＳ変更に伴い、ＩＣＴ教育のこれまで構築してきたノウハウを生かしながら、新たなノウハウを構築し、よりよい授業づくりを目指す。

(様式2)

大阪市立昭和中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【視点 学力の向上】</b></p> <p>○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2時間以上」と答える生徒の割合を50%以上、かつ「1時間以上」と答える生徒の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)</p> <p>○平成27年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート（5月・12月実施）の各項目において、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える生徒の割合を、5月実施分より12月実施分において向上させる。</p> <p>○平成27年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成27年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくよう努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【自主学習習慣の確立】</b></p> <p>放課後等に自主学習時間を設定し、地域コーディネーターやボランティアと協力して、生徒の自主学習を支援する。(カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連)</p>	A
<p><b>指標・定期テスト前に、自主学習会をそれぞれ3日以上開催する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜学習会を学期に1回以上、また夏季休業期間中に自主学習会を3日以上開催する。</li> </ul>	A
<p><b>取組内容②【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <p>思考力・判断力・表現力の育成に向けて、言語活動を通して指導と評価の一体化を推進する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p><b>指標</b> 全教科において、思考力・判断力・表現力を育成する取組を、計画通りに実施する。</p>	
<p><b>取組内容③【習熟度別少人数授業の実施】</b></p> <p>生徒の学習到達度を把握し、生徒にわかる喜びを味わわせ、学ぶ意欲を育てる学習など個に応じた指導を工夫する。</p>	B
<p><b>指標</b> 対象教科において、習熟度別少人数授業を年間総授業時数の33%以上設定する。</p>	
<p><b>取組内容④【小中一貫した教育の推進】</b></p> <p>9年間を見通した教育課程を編成し、中1ギャップの解消に努める。</p>	B
<p><b>指標</b> 校区小学校高学年において、年間を通して、理科を中心に中学校の専科授業を体験させる。</p>	

取組内容⑤【特別支援教育の充実】 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、自立と社会参加に向けて、個に応じた指導を充実する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 月に1回は、個に応じた指導について共通理解を図るとともに、年に1回以上指導方法に関わる校内研修会を開催する。	
取組内容⑥【読書活動の推進】 読書習慣を身につけさせ、本を読む楽しさを味わわせる。(カリキュラム改革関連)	
指標 毎週2回以上、朝の読書活動を行うとともに、年間を通して、昼休みに学校図書館を開館する。	B
取組内容⑦【授業研究を伴う校内研修の充実】 「学び続ける教員サポート事業」に則り、すべての対象教員が研究授業を実施し、指導力の向上に取り組む。(カリキュラム改革関連)	
指標 学期に1回以上実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の項目について、「2時間以上」と答える生徒の割合が69.7%、さらに「1時間以上」と答える生徒の割合を92.4%に達し、年度目標を達成した。	
○平成27年度「指導方法の工夫改善定数を活用した小学校における専科指導の充実」に係る児童アンケート(5月・12月実施)の各項目において、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答えた児童割合は全質問項目全体の平均を考えると、71.5%→74.7%と71.5%→42.7%と2小学校によって異なる結果となった。割合が減少した小学校においては、生活指導上の課題があり、中学校としての「授業規律」を学ばせていく必要性の中で、小学校との雰囲気の違いもあり、児童に戸惑いがあったことに起因すると考えられる。しかしながら、「理科の授業では、発言や手を挙げるなど、積極的に参加している。」の項目については、2小学校とも増加した(22%→27%と33%→36%)。	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合が82%となり年度目標を達成した。	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている(どちらかといえば、努めている)」と答える保護者の割合が81%となり年度目標を達成した。	
【中期目標の達成状況】	
○平成28年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる目標については、来年度の調査結果を待つこととなるが、平成24年度40.0%であったものが、平成27年度においては51.6%まで伸びてきている。さらには、平成27年度末の校内アンケートにおける「家では宿題だけでなく、予習や復習もしている」の項目では1年生が43%であるのに対し、3年生が67%にまで伸びてきている。	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある(どちらかといえば、ある)」と答える生徒の割合は平成24年度の73%から82%まで向上し、中期目標を達成した。	

○平成 27 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合は平成 24 年度の 71% から 81% まで向上し、中期目標を達成した。

次年度への改善点

- 小学校との連携を強化し、小中一貫した教育の推進に努める中で、規律面も含めて中 1 ギャップをなくしていく手立てを考える必要がある。
- 今後も、家庭と学校との連携のもと、家庭学習の重要性を共有し、生徒の学習習慣の定着と向上に努めていく。
- I C T の活用を通して生徒に、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する能力や、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力をさらに高めさせる。

## 大阪市立昭和中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 道徳心・社会性の育成】</b>	
○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）	B
○平成27年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、50%以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）	
○平成27年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳教育の充実】 人間としての生き方を考えさせる道徳教育を、道徳教育推進教師を中心に、全教職員の共通理解のもとで推進する。（カリキュラム改革関連）	B
指標 全教員が、1年に1回以上は道徳の授業実践を行う。	
取組内容②【道徳教育の充実】 生徒の内面に根ざした道徳性を育成するため、豊かな体験活動を推進する。（カリキュラム改革関連）	B
指標 各学年を対象に、体験学習を年に1回以上実施する。	
取組内容③【生命を尊ぶ教育の充実】 命あるものを愛しむ心を育てるため、学校元気アップ事業を活用し、体験活動を推進する。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）	B
指標 生徒を中心に、地域・保護者・学校が協力して、子育て体験を実施する。	

取組内容④【キャリア教育の充実】 社会的・職業的自立に向け、子どもの勤労観・職業観を育てるため、職業講話や職業体験学習など、子どもの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を推進する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 全ての学年において、年に1回以上、キャリア教育を実施する。	
取組内容⑤【いじめへの対応】 「学校いじめ防止基本方針」に則り、すべての教職員が「いじめ」を見抜く鋭敏な感覚を養い、事案の未然防止および早期解決に努める。(カリキュラム改革関連)	B
指標 月に1回以上、いじめ防止に関する委員会を開催する。	
取組内容⑥【防災教育の推進】 災害発生時に支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)	B
指標 地域関係諸機関と連携した防災教育を、年に1回以上実施する。	
取組内容⑦【美化・環境整備】 生徒・保護者・教職員が、潤いのある校内環境を整えることを通して、情操豊かな生徒を育成する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 生徒・保護者・教職員による校内緑化活動を、年に1回以上実施する。	
取組内容⑧【部活動の充実】 部活動を通して、役割と責任を自覚し、協力し合える態度を身につけさせるとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ教育を推進する。(カリキュラム改革関連)	B
指標 部活動入部率を85%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合が68.2%と全国平均71.7%には及ばなかった。
○平成27年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合が84%となり、85%以上にするという年度目標にはわずか及ばなかった。
○平成27年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合は76%となり、年度目標の80%以上には及ばなかった。
○平成27年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合は86%となり、年度目標を達成した。
○平成27年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合は54%となり、年度目標を達成した。
○平成27年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合は84%となり、年度目標を達成した。

### 【中期目標の達成状況】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる目標については、来年度の調査結果を待つこととなるが、平成 24 年度 66.2% であったものが、平成 27 年度においては 68.2% まで伸びてきている。
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合は、平成 24 年度の 73% から 84% まで向上し、85% の年度目標には及ばなかったが、中期目標は達成した。
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合は平成 24 年度の 69% から 76% まで向上し、80% の年度目標には及ばなかったが、中期目標は達成した。
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合は、平成 24 年度の 77% から 86% まで向上し、中期目標を達成した。
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合は、平成 24 年度の 28% から 54% に大幅に向上し、中期目標を達成した。
- 平成 27 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合は、平成 24 年度の 73% から 84% まで向上し、中期目標を達成した。

### 次年度への改善点

- キャリア教育をさらに充実させ、将来の夢や目標を持つ生徒を増やしていく必要がある。
- 一部の目標項目において、中期目標は達成しているが、年度目標が達成できないという逆転現象が起こってしまったので、今後の目標設定において留意しなければならない。
- 命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を増やし、常に生徒が意識できるようにする必要がある。
- いじめアンケートのみならず、教育相談なども充実させ、学校生活の中で生徒が困っていることがないか、常に気を配り、対応できる体制づくりを充実させる。

## (様式 2)

## 大阪市立昭和中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が本市平均ならびに全国平均を上回るようにする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食(家庭弁当や学校給食)を取る生徒の割合を 90% 以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>○平成 27 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている(どちらかといえば図っている)」と答える教職員の割合を、100% にする。(ガバナンス改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【体力向上への支援】</p> <p>望ましい運動習慣を身につけ、基礎体力の向上を図るようにする。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 毎回の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を行う。</p>	
<p>取組内容② 【食育】</p> <p>成長期にある生徒が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう食育を推進する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 月に 1 回以上、食育通信を配付する。</p>	
<p>取組内容③ 【健康な生活習慣の確立】</p> <p>心身の健康に興味を持ち、自ら管理できる能力をはぐくむ教育を推進する。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 年に 10 回以上、保健だよりを配付する。</p>	
<p>取組内容④ 【健康な生活習慣の確立】</p> <p>家庭や地域とともに、子どもの健全育成を図る取組を推進する。(カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連)</p>	B
<p>指標 関係機関・保護者とともに薬物乱用防止教室を年に 1 回以上開催する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>○平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点は男子 33.94 点で、女子が 50.00 点となり、本市平均(男子 40.62 点、女子 48.12 点)ならびに全国平均(男子 41.89 点、女子 49.08 点)と比較すると、男子は低い結果となったが、女子は本市、全国ともに上回る結果となった。</p>
<p>○平成 27 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食(家庭弁当や学校給食)</p>

- を取る生徒の割合は86%と目標には4ポイント及ばなかった。
- 平成27年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合が100%であり、目標に達した。これらについては養護教諭を中心に、連携を図っているが、特に今年度は保健委員会で取り上げたスマートフォンの問題をもとに、PTA広報委員会が家庭アンケートをもとに広報誌に掲載するなどのタイアップも図れた。
- 【中期目標の達成状況】**
- 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする目標については、来年度の調査結果を待つこととなるが、平成27年度の女子ボール投げの平均の記録は13.81mと全国平均12.83mを超えている。
- 平成27年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合は86%と目標には14ポイント及ばなかった。9月より始まった「親子方式による学校給食」において3年生の喫食率が約半数であることや、学校給食が栄養バランスのとれたものであるということへの認識不足に起因するものであるとも考えられるが、来年度からの全員喫食実施や、食育の推進によって改善されるものと考えられる。
- 平成27年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合が100%で、平成24年度の94%を上回ることができた。

#### 次年度への改善点

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果においては、その学年集団の特性などもあり、経年比較するのになじまないものもあるといえる。今後は、経年比較に適した項目などにおいての目標設定も考えていく。
- 学校給食において、「親子方式」開始により残食率については、相対的に見ると劇的に改善されたが、絶対的な数値としては満足のいくものではない。今後、食育の充実の通して、残食率をいかに0%に近づけていくかが課題となる。
- 平成27年度は、インフルエンザによる学級休業があった。今後、これらの蔓延を校内でいかに最小限に防げるか、保健衛生面での教育のさらなる啓発を図りたい。

## 大阪市立昭和中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 教職員のICT活用能力の向上】</b> ○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にICTを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）	
○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にICT活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）	B
○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【各種研究・研修の充実】</b> 教職員のICT活用能力の向上のため、学校教育ICT支援員・授業づくり指導員の協力のもと、校内研修を充実させる。（マネジメント改革関連）	A
指標 全教員が、教材研究と併行してICT機器の使用方法を習得するなどの校内研修を年間10回以上行う。	
<b>取組内容②【公開授業の実施】</b> 大阪市スタンダードモデルの確立に向け、授業を積極的に公開する。 (マネジメント改革関連)	B
指標 全教員が、ICTを活用した公開授業に取り組む。	
<b>取組内容③【ICTを活用した教育の推進】</b> 生徒に対しICT活用を指導する能力を高める。（マネジメント改革関連）	B
指標 ICTを活用し、生徒が主体的に発表する場を、複数の教科において設ける。	
<b>取組内容④【組織運営】</b> 校務の効率化・省力化を進め、教職員の負担の軽減を図る。（マネジメント改革関連）	B
指標 校務にICTを活用するための研修を、学期に1回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【年度目標および中期目標の達成状況】</b>
○平成27年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」はまだ現段階で時期的に未実施ではあるが、全教員が授業においてICTを活用しており、「授業中にICTを活用して指導する能力」「生徒にICT活用を指導する能力」「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」に該当する教員は100%に達するといえる。

#### 次年度への改善点

- 「学校教育 ICT 活用事業」モデル校指定が終了した後も引き続き、先進的実践研究校の指定を受け、大阪市の ICT 教育を牽引する先駆的役割を果たしていく。
- I C T 活用の全市展開に伴い、本校のタブレット P C がこれまでと異なった O S のタブレット P C に入れ替わる。これを受け、これまでのノウハウを新たに違ったステージで再構築することが必要となる。
- ・校務の ICT 化をいつそう促進し、教員が生徒と向き合う時間の増加に努める。
- ・情報モラル教育を徹底し、主体的に情報と向き合い、情報の取捨選択ができる生徒を育成する。